

## ままごとの研究

兼信英子・森 智子\*

### A Study of *Mamagoto* (*Playing at Housekeeping*)

Eiko KANENOBU and Tomoko MORI\*

(Received May 25, 1992)

#### 緒 言

近年, 子どもたちを取り巻く環境の変化により, 室内での一人遊びが増加する傾向にあり, 家族の触れ合いの中から豊かな人間性を培う機会が減少してきている。子どもたちは, 日常生活の中で家族の姿を見ながら生活習慣を身に付けていき, 大人の生活行動を模倣して遊ぶ姿が「ままごと」の中に自然と現れてくる。ところが, 現代の子どもたちの間では次第にままごとが好まれず, 減少する傾向にある<sup>1),2)</sup>。

一方, 新幼稚園教育要領において, 領域の中の「社会」の名称が「人間関係」と改訂され<sup>3)</sup>, また, 新学習指導要領において, 小学校『家庭』では従来の「住居と家族」の名称が「家族の生活と住居」と変わり<sup>4)</sup>, 中学校『技術・家庭』では新しく「家庭生活」という領域が設けられた<sup>5)</sup>。このように, 今日教育において人間関係や家庭生活が重視されてきており, 子どもたちにとって, 人と人との関わり合いの中で愛情や信頼関係をはぐくんでいくことが大切である。そこで, 本研究では人間関係や家庭生活と関連する子どもの遊びの中の一つとして「ままごと」に焦点をあてて研究し, その教育的意義や必要性を検討することを目的とした。

研究の方法としては, 文献を主体に「ままごと」の語源や方言, 心理学からのアプローチによりままごとを定義し, ままごとの発生や変遷についても調べた。また, 小学校第1学年の児童を対象に実態調査を行い, 教育的意義を検討した。

#### 1. ままごとの定義

##### (1) 方言の分布

文献から収集したままごとの方言 185 語のうち 175 語を, 都道府県別に分類し, ままごとの方言分布を表 1 に示す<sup>6) 7) 8),9),10),11)</sup>。

様々な方言の中でも, 「ままごと」に似ている語や, 主婦や母親を意味する「オカカ」, 「オカタ」などが用いられているものが多数ある。「ままごと」に似ている語をみていくと, 飯を“マンマ”と言うことからつまって「ママ」になったり, 「ママン」, 「マンマン」などと少しずつ変化した方

---

日本家政学会九州支部第 38 回 (宮崎大学 1991 10. 12) において発表した

\* 能本市立一新幼稚園

表1 ままごとの方言分布

地方	都・県	方 言
東 北	1. 青森	オヒルマイコ, オフルマエゴト, オフルメアッコ, オフルメヤコ, オフルミヤコ, サカマコ, ジサイコナコ
	2. 岩手	カッカタッコ, カッコタッコ, トッコ, ママタブリ, マンマアシビ, マンマコアシビ, マンマダッコ
	3. 宮城	オカカゴツ, オカカブチ, オカカブツ, オカカボチ, オカタボチ, オヒナタチ, オヒナタテ
	4. 秋田	ヂャヂャボコ, チャヂャボッコ, トナナンコ, 寄り物, ヨリモンコ
	5. 山形	オカタアソビ, オシナゴト, オバコタチ, オバコダチ, カツツビ, チェッツブ
	6. 福島	オチャメンコ, オマンマゴト
関 東	7. 茨城	オガサンコ, オゴーシン, オコシンコ, オコシンゴッコ, オバサンコ, オマサンコ, オモチャンコ, カマカマ, カマコ, 釜こ焼き, カマゴッコ, カマッコ, カマンコ, チンチンカマカマ,
	8. 群馬	お客さんヤッコ
	9. 千葉	オミッチャゴ, オモチャゴ, ケエヤドッコ, ケンゴト, ナンカゴッコ, ナンカゴト, ナンゴト, ヘーナヤゴ, ママキ
	10. 東京	姉さまごと, オキヤクアソビ, (伊豆諸島) イエッコ, イリエ, イレモッコ, イロンゴキ, ウンバージ, エレモッコ, オンバッコ, スリーヤー, スレイヤド, ネザンバ, ネザンバアソビ, ネタンバア, ネダンバア, フルミヤッコ, マッカー, マッカーヤ, マッカーヤー, 招ばれナンゴ
中 部	11. 新潟	オカサマゴツチョ, オガチャマゴト, サシゴト
	12. 富山	シナサマゴト
	13. 石川	オジャコト, オジャゴト, ニカママ
	14. 福井	カラゴト, ジャジャンコ
	15. 山梨	オカタッコ, オカダッコ, オコンバ, オワザッコ, オンバヂッコ, コンバ, ニンコトアソビ
	16. 長野	ウシンベカナンベ, オキヤクアソビ, オキヤクボッコ, オキヤナンコ, オバコト, オバゴト, オマンマカンジョ, オンバレコ, ヨバレッコ, 嫁さんこ, ヨメサンゴ, ヨメドコ
	17. 岐阜	クバリゴト, ゴチソウサンゴト, ツジメシ
	18. 静岡	オカタサンゴト, オコンバ, オンバイゴト, オンバゴト, カンノッコ, キンジロゴト, ゴメンクダサイゴッコ, コンバ, ショウロメシ, ママッコ
	19. 愛知	ママエコ, ママゴツチャ, ママチャンゴ, マンマエコ, マンマンゴ
近 畿	20. 三重	門まま, カタカタ, ゴコトンボ, ナンコビ
	21. 奈良	オカタサゴト, オカタサンゴト
	22. 和歌山	カンカン, チャチャボコ, ミヤサン, ミヨサン
中 国	23. 鳥取	ヲバサンゴト
	24. 岡山	バエバエゴク, ボニクド, 盆電, ボンクド
	25. 山口	ママコ, マンマンゴト, (大島) パイバイコ
四 国	26. 香川	(小豆島) 餓鬼飯
	27. 徳島	オンメハンゴト, クバリアイ, 盆のままごと, ママハン, マンマイゴト
九 州	28. 福岡	ヒーナサンゴ, ママタンゴ, ママンコウ, ママンゴト
	29. 長崎	ママンゴ, (宇久島) カンノンサマアソビ, (小値賀島) ホンミヤナンド, (平戸) ママゴジョ, (五島) 門飯, カンカラアソビ, ツツゴマンジョ, ツンゴマンジョ, バッジョ, ババジョ
	30. 熊本	キヤクナンド, ママンゴ
	31. 大分	オクサンゴツケン, ネエサンナンゴ
	32. 宮崎	ナナコメ, ママゴツ, ママンゴ, マンマンゴツ
	33. 鹿児島	カンノンコウ, バーバー, バッコー, マアモウ, マゴンマネ, ママゲ, (種子島) マーゴショー, (宝島) マンマゴト, (喜界島) ガンドー, ムンカーユ

言がある。「マンマアシビ」<sup>6)</sup>、「オマンマゴト」<sup>6)</sup>などのように「マンマ」と言っているものは主に東北地方に分布している。逆に、「ママタンゴ」<sup>6)</sup>や「ママゴツ」<sup>6)</sup>などのように「ママ」と言っているものは主に九州地方に分布している。また、「ママンゴト」<sup>6)</sup>、「ママンゴ」<sup>6)</sup>など「ママン」と言っているものは九州地方に特有である。

また、母親や主婦を意味する「オカカ」、「オカタ」、「カッカ」などの語が付いているものは、ほとんどが東日本に分布していることがわかる。

一方、「ママゴト」の「ゴト」には“真似”とか“写し”とかいう意味があり<sup>12)</sup>、「ゴト」が「ゴ」に省略されたものや、また「コト」から「コ」になったり、少しずつ音が変化した「ゴツ」、「ブツ」、「プチ」、「ボチ」、「ポコ」、「ポッコ」などが同じ意味を持ち使われている。ごっこ遊びの「ごっこ」はこのような変化の中からできた語であるといえる。

また、伊豆諸島や九州の島々には「ウンバージ」<sup>6),7)</sup>、「スリーヤー」<sup>6)</sup>、「マーゴショー」<sup>6)</sup>、「ガンドー」<sup>6)</sup>など変わった方言がある。

様々な方言はそれぞれの土地で何らかの理由があってできたものであるが、現代ではほとんど「ままごと」と言われており、その方言の語源が伝えられていないものもある。

(2) 方言の分類

語源のわかっている 172 語を 6 つに大別し、表 2 に示す。

1) 飯、食物調理、調理用具などを意味する方言の中には、「ままごと」系の語が多数ある。例えば「オマンマカンジョ」<sup>6)</sup>、「ママタブリ」<sup>6)</sup>などの「オマンマ」や「ママ」は“飯”のことで、「カ

表 2 ままごとの方言分類

分類	方 言	都 ・ 県	語 源 ・ 意 味	文献
1) 飯・食物調理・調理用具などを意味する方言	1. オマンマカンジョ	長野 北部	「飯食え、食べろ」という日常使う命令形	6)
	2. ママタブリ	岩手 九戸郡		〃
	3. ママキ	千葉 海上郡		〃
	4. ママゲ	鹿児島 知覧		〃
	5. マンマアシビ	岩手 九戸郡	マンマは「飯」の意味	6)
	6. マンマコアシビ	〃 〃		〃
	7. マンマダッコ	〃 〃		ダッコは「手振り」の意味
	8. ママチャンゴ	愛知 豊橋市	マンマ、ママは「飯」の意味	6)
	9. マンマンゴ	〃 渥美郡野間村		〃
	10. ママゴツチャ	〃 碧海郡		〃
	11. マンマエコ	〃 愛知郡下一色		〃
	12. ママエコ	〃 尾張海部郡		〃
	13. オマンマゴト	福島 会津若松市	(地方により少しずつ異なるが、すべてままごとのことである)	6)
	14. マゴンマネ	鹿児島 鹿児島市		〃
	15. マーゴショー	〃 種子島		〃
	16. ママコ	山口 岩国市		〃
	17. ママゴツ	宮崎 東臼杵郡		〃
	18. ママタンゴ	福岡 三潞郡		〃
	19. ママッコ	静岡 庵原郡		〃
	20. ママンゴ	宮崎 児湯郡		〃
	21. ママンゴ	長崎 長崎市		〃
	〃	熊本 芦北郡		〃
	22. ママンコウ	福岡 博多		〃
	23. ママンゴト	〃 嘉穂郡		〃
	24. マンマゴト	鹿児島 宝島		〃
	25. マンマンゴツ	宮崎 西臼杵郡		〃
26. マンマンゴト	山口 豊浦郡	〃		

分類	方 言	都 ・ 県	語 源 ・ 意 味	文献
1) 飯・食物調理・調理用具などを意味する方言	27. ママハン 28. ママゴジョ	徳島 祖谷山 長崎 平戸	ハン, ゴジョは敬語 (敬語を添えているのは珍しい)	6) 〃
	29. ケンゴト	千葉 安房郡千倉町	炊事のこと ケは「晴れ」に対する「褻」	6) 7)
	30. ニンコトアソビ	山梨 東部	「煮事遊び」の意味	6)
	31. バイバイコ 32. バエバエゴク	山口 大島 岡山 邑久郡	火を焚く音の形容	6) 〃 7) 9) 11)
	33. カンカラアソビ	長崎 上五島 瀬々浦	缶詰の「缶の殻」のこと (これをままごとに用いたことからついた)	6)
	34. サカマコ	青森 東北端	語源は「釜」	6)
	35. マッカリ 36. マッカリヤ 37. マッカリヤー	東京 八丈島 大賀郷 〃 〃 〃 〃 〃 榎立 〃 〃 中之郷	まかりは古語で「土焼きの碗」の意味 (女兒はこれをままごとに使っていた)	6) 〃 〃 〃
	38. オミツチャゴ 39. オモチャゴ	千葉 海上郡 〃 〃	「御水屋ゴ」が訛ったもの 水屋は勝手または流し元のこと 女の煮炊きのわざを主にした遊び	6) 7) 11) 6)
	40. ケエヤドッコ	千葉	「カイ屋のわざ」という意味 家の竈屋のことを「カイヤ」または「ケエヤ」という	6) 7) 9)
	2) 母親・主婦などを意味する方言	1. オオカゴツ 2. オカカブチ 3. オカカブツ	宮城 仙台 〃 〃 〃 〃	小児の片言でオカカ, オカタとは「母親」, 「主婦」のこと ゴツ, ブチなどはまねびをすること
4. オカカボチ 5. オカタアソビ 6. オカタサゴト 7. オカタサンゴト 〃		宮城 山形 奈良 奈良 静岡	〃 6) 10) 11) 6)	
8. オカタッコ 9. オカダッコ 10. オカタボチ		山梨 〃 宮城 仙台	7) 6) 9) 7) 6)	
11. オカサマゴツチヨ 12. オガチャマゴト		新潟 〃 北蒲原郡	6) 7) 6)	
13. オガサンコ 14. オバサンコ 15. オマサンコ		茨城 久慈郡北部 〃 生瀬 〃 久慈郡北部	8) 〃 〃	
16. オバサンゴト (ヲ)		鳥取 但馬	6) 7) 9)	
17. オバコタチ 18. オバコダチ		山形 〃 米澤地方	6) 7)	
19. オンメハンゴト		徳島	6)	

分類	方言	都・県	語源・意味	文献	
2) 母親・主婦など意味する方言	20. カッカタッコ	岩手 九戸郡	カッカは「主婦」のこと	6)	
	21. カッコタッコ	〃 〃		〃	
	22. オジャコト	石川 金沢市	ヂャヂャは「主婦」, 「母親」のこと ボコ, ボッコはまねびをすること	7)	
	23. オジャゴト	〃 〃		6)	
	24. ジャジャンコ	福井		9)	
	25. チャチャボコ	和歌山		6)	
	26. チャヂャボコ	秋田 北半分		7)	
	27. チャヂャボッコ	〃 〃		6)	
				〃	
				〃	
				9)	
				10)	
				11)	
		28. バーバー	鹿児島	「婆々」ではなくて「主婦」のことを「うば」と言った言葉から出たもの (お母さんごっこ)	6)
		29. バッコー	〃		〃
		30. バツジョ	長崎 上五島		7)
		31. ババジョ	〃 〃 有川		6)
		32. オンバヂッコ	山梨		7)
		33. オンバッコ	東京 三宅島 坪田		6)
		34. オンバイゴト	静岡 西半分		〃
		35. オンバゴト	〃 〃		〃
		36. ウンバージ	東京 三宅島 神着		7)
		37. ゴコトンボ	三重 尾鷲		ウンバージとは「老婆」のこと
				ゴコは中世からある語で「若い娘」, 「花嫁」のこと (ゴコとウバ, すなわち「若い娘」と「年とった主婦」との付き合いの様子を演じた遊び)	7)
		38. ナンカゴッコ	千葉 山武郡	ナンは「尊敬する若い女性」のこと	6)
		39. ナンカゴト	〃 〃		〃
		40. ナンゴト	〃 〃		〃
	41. ネエサンナンゴ	大分 海岸部	「姉様ごと」のこと 「姉様」は未来の主婦, すなわち「跡取り嫁」への敬語	6)	
	42. ネザンバ	東京 伊ヶ谷	「姉さん婆さん」の意味 老若二人の女性の辞令の交換を中心とした一種の演技	6)	
	43. ネザンバアソビ	〃 三宅島		7)	
	44. ネタンバア	〃 〃		6)	
	45. ネダンバア	〃 〃		7)	
				6)	
3) 大人の交際を意味する方言	1. マアモウ	鹿児島	主婦たちの交際の辞令から出た名称	6)	
	2. イエッコ	東京 伊豆大島	「家のわざ」ということ	6)	
	3. イリエ	東京 御蔵島	「入れ物」のことではないかと言われる また, 「物を借りにくること」ではないかとも言われる	6)	
	4. イレモッコ	〃 伊ヶ谷		〃	
	5. イロンゴキ	〃 伊豆南端		〃	
	6. エレモッコ	〃 伊豆		〃	
	7. オバコト	長野 松本	二家の交流の真似をする「お客遊び」のこと	6)	
	8. オバゴト	〃 〃		7)	
	9. ゴメンクダサイゴッコ	静岡 静岡市	主婦の訪問の挨拶からついた名称	6)	

分類	方言	都・県	語源・意味	文献
3) 大 人 の 交 際 を 意 味 す る 方 言	10. トナナンコ	秋田 男鹿半島	トナは「隣」のこと 近所付き合いの真似事	6)
	11. ムンカーユー	鹿児島 喜界島	「物借り」の意味 隣付き合いなど主婦の交際の真似事	6)
	12. オコンバ 〃	静岡 富士郡 山梨 東部	「今晚は」という夜分の訪問のあいさつから出 た名称 贈答と挨拶の演技をするような遊び	6) 7) 11)
	〃	〃 南都留郡		9)
	13. コンバ 〃	静岡 富士郡 山梨 東部		6) 7)
	14. オワザッコ	山梨 北巨摩郡	「わざと」とは謙遜の意味 物の贈答を主とした遊び	6) 7) 11)
	15. クバリアイ	徳島 北部	方々の家に物を「贈る(くばる)」ことからつい た名称	6) 7) 9)
	16. クバリゴト	岐阜 飛騨高山		6) 7) 9)
	17. オキヤクアソビ 〃	長野 東京	「お客様遊び」ということからついた名称	6) 9)
	18. オキヤクボッコ	長野 諏訪郡		6) 7)
	19. オキヤナンコ	〃 〃		6) 7)
	20. キヤクナンド	熊本 球磨郡		6) 7)
	21. オクサンゴッケン	大分 大分市	「お客様遊び」を意味する児童語	6) 7)
	22. オチャメンコ	福島 会津	「お茶まいれごと」の訛り 「お茶」は本膳を用いない簡略な人招びのこと	6)
	23. オバチコ		子どもが柿など切り刻み、招(よ)んだり招ば れたりして遊ぶこと	6)
	24. オヒルマイコ	青森 津軽	人を招いて食事をする「振舞い」からついた名 称	6) 7) 6) 7) 6) 〃 7)
	25. オフルマエゴト	〃 米沢		11)
	26. オフルメアッコ	〃 石巻		6)
	27. オフルメヤコ	〃 津軽		〃
	28. オフルミヤコ	〃		11)
	29. フルミヤッコ	東京 伊豆多方郡		6) 7)
	30. ホンミヤナンド	長崎 小値賀島		6) 7)
	31. オンバレコ	長野 小県郡 〃 上田市	客として招かれるという意味の「招ばれる」と いう語からついた名称	6) 7)
	32. ヨバレッコ	〃 小県郡 〃 上田市		6) 9)
	33. 招ばれナンゴ	東京 伊豆 北部		6)
	34. ゴチソウサンゴト	岐阜 大垣市	招かれたときの挨拶の言葉から出た名称	6) 9)

分類	方言	都・県	語源・意味	文献
4) 子どもの集まる場所を意味する方言	1. スリーヤー	東京 八丈島 末吉	子どもの集まる場所を「揃い(そろい)宿」ということからついた名称	6)
	2. スレイヤド	〃 〃 三根		〃
5) 雛遊び・人形遊びを意味する方言	1. オシナゴト	山形 最上地方	シナ, ヒナ, ヒーナ, ヘーナは「雛」のこと ゴト, ヤゴなどは真似, 写しという語 人形遊びのことで, ままごとでも人形を使って遊ぶのでままごとをこのようにいう	6)
	2. シナサマゴト	富山 中新川郡		〃
	3. オヒナタチ	宮城 仙台		〃
	4. オヒナタテ	〃 〃		〃
	5. ヒーナサンゴ	福岡 久留米		〃
	6. ヘーナヤゴ	千葉 海上郡		〃
	7. 姉さまごと	東京	人形遊びのこと	6)
	8. キンジロゴト	静岡 磐田郡	「キンジロ」とは人形のこと	6)
	9. お客さんヤッコ	群馬 山田郡	人形をお客さんにして遊ぶ遊び	6)
	10. 嫁さんこ 11. ヨメサンゴ 12. ヨメドコ	長野 小県郡 〃 北部 〃 〃	女の人形をたててする遊び	6) 〃 〃
(参) ネザンバ (分類2)	東京 伊ヶ谷	「ネザンバ」という草人形をままごとに必ず持つて遊ぶからという説もある	6) 7)	
6) 宗教的行事など晴れの日の饗応を意味する方言	1. ウシンベカナンベ	長野 南佐久郡 川上村	旧4月3日の子どもの遊びで儀式に属する川原に石垣をめぐらしてその中で煮炊きをしたり宿泊したりする	6)
	2. オゴーシン	茨城 新地, 筑波 稲敷, 行方, 鹿島の各郡	大人の「庚申講」の飲食を真似することからついた名称	8)
	3. オコシンコ	〃 〃		〃
	4. オコシンゴッコ	〃 〃		〃
	5. 門のまま 6. 門まま	三重		屋外で調理して食べる盆の行事のこと
	7. 門飯	長崎 五島	盆に辻や川原で子どもたちが無縁仏の供養に行った「盆がま」の行事からでた名称	〃
	8. カマカマ	茨城 稲敷郡		8)
	9. カマコ	〃 行方 鹿島郡		〃
	10. 釜こ焼き	〃 東北部		6)
	11. カマゴッコ	〃 稲敷 行方郡		8)
	12. カマッコ	〃 稲敷 行方 猿島郡		〃
	13. カマンコ	〃 稲敷郡		〃
	14. ボニクド	岡山 児島郡		6)
	15. ボンガマ			9)
	16. 盆粥			10)
	17. ボンクド	岡山 児島郡		11) 7)
	18. 盆のままごと	徳島 伊島		〃 9) 7)
	19. 盆飯		11) 7)	

分類	方 言	都 ・ 県	語 源 ・ 意 味	文献
6) 宗 教 的 行 事 な ど 晴 れ の 日 の 饗 応 を 意 味 す る 方 言	20. 盆竈	岡山 児島郡	(もとは材料を家々から持ち寄って、女の子が調理して男の子に御馳走すること)	6) 7) 11)
	21. カラゴト	福井 三方郡		6) 7)
	22. 河原事 (川)		盆や節句の日の屋外食事を水のほとりで行っていた名残り	6) 7)
	23. 川原オジヤ		この遊びはその予習や復習	11)
	24. 川原飯			6) 7) 10) 11)
	25. ツジママ	岐阜 美濃	三月節句や盆の年中行事に少女たちが屋外で煮炊きして共食すること	10)
	26. ツジメシ			6) 7) 9) 10) 11)
	27. ショウロメシ	香川 小豆島	盆の儀式のこと	7)
	28. 餓鬼飯			〃
	29. チンチンカマカマ	茨城 南部	チンチンは「小さい」ということで、そういうかわいらしい土焼きの釜で、盆や三月節句に女の子たちは本式の食事を調理して食べていた。しかしこれは年中行事であったので、他の日には許されず、子どもたちは草の実や花を集めてその行事を真似して遊んだ。	6)
	30. カンカン	和歌山 伊都 那賀郡 静岡 庵原郡 鹿児島 東部 長崎 宇久島	「観音講」は信仰の団体でこれに参加する者が多くの土地では女性であった。この日主婦たちは、男たちに気兼ねすることなく食事を楽しんだ。子どもたちは母について行き、それを真似して遊ぶようになった。	6)
	31. カンノッコ			〃
	32. カンノウコウ			〃
	33. カンノンサマアソ ビ			〃
34. ジサイコナコ	青森 津軽	ジサイは「持斎」と書き、仏事または法事のこと、このとき主婦が食物の調理分配をしている様子を子どもたちは真似して遊んだ。	6) 7) 11)	
35. トッコ	岩手 二戸郡福岡町	講や法事などの晴れの日の饗応のこと	9)	
36. ノノサマゴト		食物をこしらえて仏前に供えるという主婦たちの所作を真似した遊び	6)	
37. マンマイゴト	徳島	マンマイは家々の「仏様」、または「お月様」などの人の拝むものこと 食物の初穂を先祖棚に供えるという主婦の役目を真似した遊び	6)	
38. 寄り物	秋田 北部	盆の魂祭の後、瓜や大角豆などの供物を川へ流すのを子どもたちが集まって拾い上げる行事であり、それを煮焼きして屋外の食事をした。	6)	
39. ヨリモンコ	秋田	春の雪消えの後に、草の上に笹を敷いて、女の子が亭主役、男の子がお客さん役になって遊ぶ遊び	6)	



ンジョ」,「タブリ」などは“食え”という意味で,“飯食え”という命令形がそのまま名称になっている。飯を意味する“マンマ”,“ママ”からついたままごとの方言が数多くあることから,ままごとが食物調理,飲食を主に模倣して遊ぶ遊びであることがわかる。また,調理の様子や調理用具,調理する場所からついた方言もあり,家庭生活の中での食生活に子どもは幼いころから関心が強いといえる。

2) 母親,主婦などを意味する方言の中には,幼児の片言で,母親や主婦のことを“オカタ”とか“オカカ”とか言うことよりついたものが多数ある。秋田などで,主婦や母親のことを“チャチャ”と言うことから,「チャチャボッコ」<sup>6),9),10),11)</sup>,「ジャジャンコ」<sup>6),7)</sup>などと珍しいものもある。母親,主婦を表す語からついた方言が収集した中で最も多かったということは,ままごとは食物調理のみでなく,広く母親の家庭での姿を模倣する遊びであるといえる。

方言の分布を日本地図に表してみた(図1)。飯,食物調理,調理用具などを意味する方言と,母親,主婦などを意味する方言を比較すると分布の違いがわかる。

3) 大人の交際を意味する方言の中には,訪問や贈答などの近所付き合いのもの,例えば,「オキヤクボッコ」<sup>6),7)</sup>など,“お客様遊び”ということからついたものがある。また,「オヒルマイコ」などは,人を招いて食事をする“振舞い”からついたものである。このような方言をみると,家庭内の生活だけでなく社会生活として近所付き合いなど人間関係をよりよくしていくための要素がままごとに含まれていることがわかる。

4) 子どもの集まる場所を意味する方言は,「スリーヤー」<sup>4)</sup>,「スレイヤド」<sup>4)</sup>の2語であった。

5) 雛遊び,人形遊びを意味する方言の中には,「オシナゴト」<sup>6)</sup>などがあり,人形を用いてのままごとのことで,「シナ」,「ヒーナ」,「ヘーナ」は“雛”のことである。

6) 宗教的行事などの晴れの日の饗応を意味する方言をみると,例えば,「ボンガマ」<sup>10),11)</sup>,「ボンクド」<sup>7),11)</sup>などは盆の年中行事で,少女たちが屋外で食物を煮炊きして共食する「盆がま」の行事から出たものである。このように宗教的行事などのおもしろさを真似して発展したままごとも多数ある。晴れの日の食事の特別なおいしさや楽しさが,子どもの遊びの中に取り込まれていったといえる。

分類した方言の中には,飯,食物調理,母親や主婦,交際,贈答,振舞いなどの真似を意味する語が多数を占め,宗教的行事などの真似を意味する語はそれらの約3分の1であった。確かに宗教的行事のおもしろさを真似して発展してきたままごともあるだろう。しかし,このように方言をみてきたところ,やはりその起源は宗教的行事ではなく,家庭生活の中から自然に生まれた遊びであるといえる。

### (3) 遊びの分類

心理学における遊びの分類を表3に示す<sup>13),14),15),16)</sup>。この表からままごとの位置をみると,それはJ.ピアジェの言う“象徴的遊び”,R.カイヨワの言う“ミミクリー(模倣)”,C.ビューラーの言う“フィクションの遊びあるいは幻想の遊び”,山下俊郎の言う“模倣ないし想像遊び”に属する代表的な遊びである。中学校『技術・家庭』<sup>17)</sup>の教科書では,山下の分類が用いられており,ままごとは“模倣・想像遊び”に分類されている。

また,M.B.パーテンは,社会的行動の発達と関連させて,子どもの遊びを6つに分類している。それらとままごとの行動を照らし合わせてみると,まずはじめは“とりとめのない行動”として,子どもは身の回りの人の行動をただ漠然と見ている。そしてだんだんと興味・関心を持ちながら見る“傍観者遊び”へと変化していく。そこで,子どもにとって遊びやすい環境が整えられると,“一人遊び”を行うようになり,例えば母親が料理をする真似などをするようになる。そ

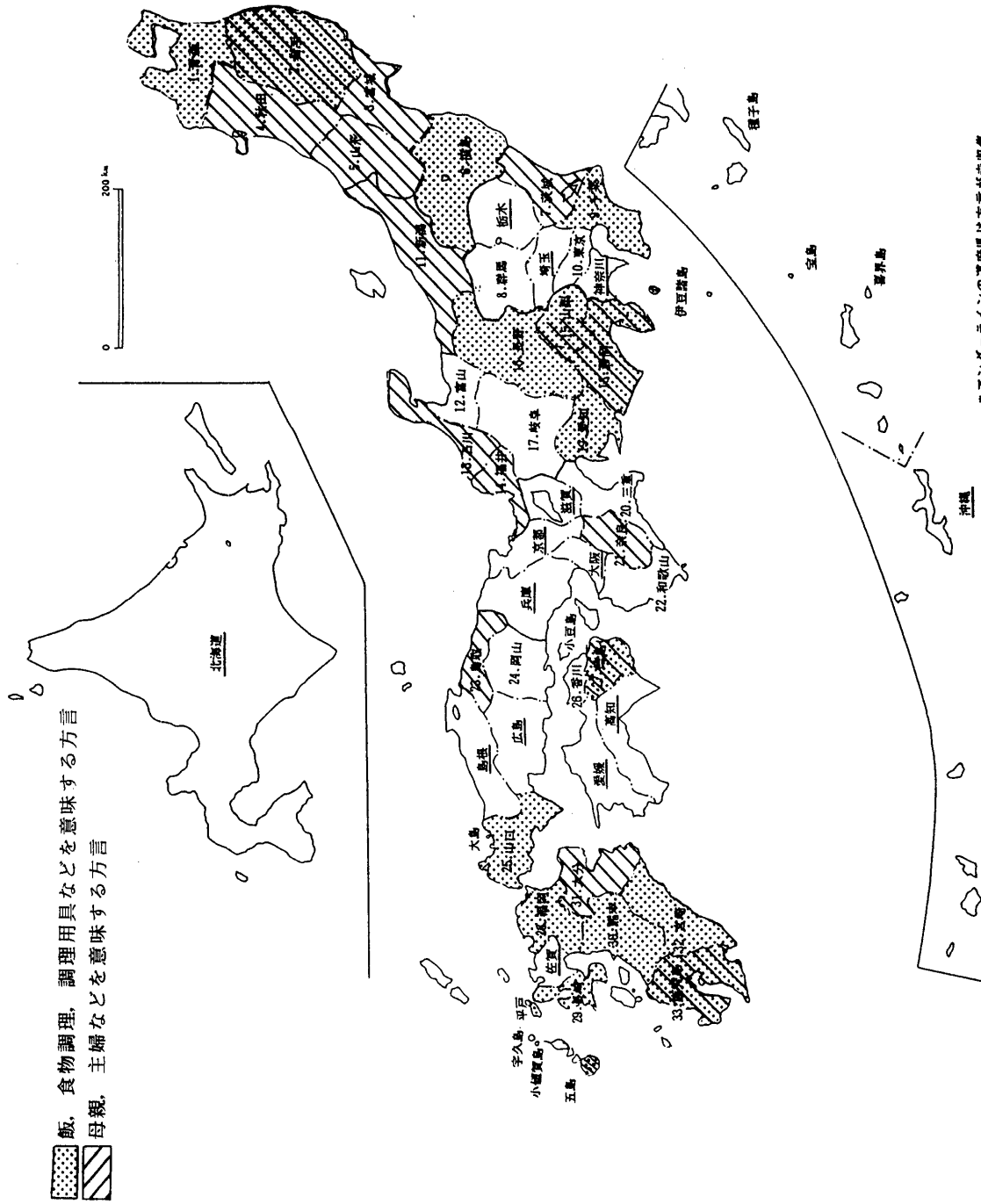


図1 ままごとの方言分布

表3 遊びの分類

学 者	分 類
J. ビアジェ	(1)実践の遊び (2)象徴的遊び (3)ルールのある遊び
R. カイヨフ	(1)アゴーン(競争) (2)アレア(偶然) (3)ミミクリー(模擬) (4)イリンクス(めまい)
C. ビューラー	(1)機能的遊び (2)フィクションの遊びあるいは幻想の遊び (3)受動的遊び (4)構成的遊び (5)集合的遊び
山下俊郎	(1)感覚遊び (2)運動遊び (3)模倣ないし想像遊び (4)受容遊び (5)構成遊び
M. B. パーテン	“社会的行動の発達と関連させた分類” (1)とりとめのない行動 (2)傍観者遊び (3)一人遊び (4)並行活動または並行遊び (5)連合遊び (6)協力遊び

して、他の子どもたちと同じ場所で遊ぶ機会ができてくると、“並行遊び”をするようになり、徐々に関わり合いを持つようになって、“連合遊び”ができるようになる。そして、役決めをしたり、協力しておうち作りをしたりして、“協力遊び”ができるようになる<sup>18)</sup>。このことから、ままごとはこの分類の中の一つに属するのではなく、いくつかの分類と関わりを持ちながら、発達段階に応じて内容が密になり発展していく遊びであるといえる。

以上より、心理学からみたままごとは模倣・想像遊びであり、個から集団への発達に応じて人と人との交わり方、社会性を身につけ、人間形成にとって重要な遊びであるといえる。

#### (4) ままごとの定義

これまで述べてきたことなどから、ままごとは「日常の家庭生活を中心に家族の姿を真似して遊ぶ遊び」であると定義した。特に家族の飲食や母親の炊事の行動を模倣し、主に女の子が遊ぶ遊びだが、男の子も遊ぶ。家庭生活から社会生活の中の大人の模倣へと広がっていき、社会性も育成され、遊びの内容も発展していく。また、“模倣・想像遊び”に属し、一般的に“ごっこ遊び”とも言われる。4~5歳になってくると“協力遊び”として遊ぶようになり、複数のグループが関わって遊ぶことでさらに遊びが発展していき、子どもにとっては人間形成の上から重要な遊びである。

## 2. ままごとの変遷

日本のうごきと比較しながらままごとの変遷について年表<sup>19),20),21),22),23),26),27)</sup>を作成し、ままごとの発生やままごと道具の移り変わりなどを表4に示し検討する。

日本で人々の生活の様子がはっきりと確認されるのは旧石器時代後期になってからのことで<sup>24)</sup>、このころは狩猟、採集により食物を獲得することが生活の大半を占め、子どもは早くから共同社会の一員として大人と一緒に仕事をするのが日常生活であった<sup>25)</sup>。縄文時代の末期になると農耕生活に入り、労働と余暇の時間の分化が進んでいった。子どもは大人の手伝いをしながら、遊べる時間も徐々にできていき、模倣遊びが発生していったと思われる<sup>25)</sup>。

このような3~7世紀ごろの古墳文化時代の墳墓から、蠟石や滑石製の日用品などが発掘されている。これらは副葬品以外に一種のままごと道具として用いられていたと推定され、この時代から既にままごとが行われていたのではないかとされている<sup>19),20),21)</sup>。江戸時代ごろになると、ままごとは少女たちの間に一般化し、ままごと道具は木製や土製などのミニチュアおもちゃであった。

表4 ままごとの年表

時代	西 暦	日 本 の う ご き	ままごとの変遷 (主に道具について)
旧石器			
縄文	B. C. 10000		
弥生	B. C. 300		
大和	A. D. 300		
	538		
飛鳥	645	大化の改新	
奈良	710	平城京に遷都	
	794	平安京に遷都	
平安	1016	摂関政治栄える	
	1086	院政始まる	
鎌倉	1192	鎌倉幕府成立 武家政治始まる	
室町	1338	室町幕府成立	
安土・桃山	1582 1588	太閤検地 刀狩令	
	1600	関ヶ原の戦い	
	1603	江戸幕府成立	
	1639	鎖国の完成	
江戸	1716	享保の改革	
	1854	開国	
	1867	大政奉還	
明治	1868 1871 1873	明治維新 廃藩置県 徴兵令 地租改正	

狩猟・採集の生活

土器・磨製石器を使い始める

大陸から稲作が伝わる

古墳文化

百済から仏教が伝わる

白鳳文化

天平文化

国風文化

新仏教がひろまる

北山文化  
東山文化

桃山文化

儒学が盛んになる

元禄文化

蘭学がおこる

文明開化

ままごとの変遷 (主に道具について)

- ・蠟石や滑石製模造品の鏡, 櫛, 履物, 機織道具 (箆 (おき), 杼 (ひ) など)

- ・『源氏物語』, 『紫式部日記』の中に「ひいな遊び」の様子が描かれている

- ・小さな食器類

- ままごと遊びは少女たちの間に一般化してきた

- ・木, 紙, 竹製のままごと道具 (ミニチュア)

- ・土焼きの茶碗, 德利類, 桶, 磨り鉢, 片口 (江戸では大部分が今戸焼)

- ・「江戸沿革」(1846)  
針箱, 簞笥, かまど, まないたなどのミニチュア

- ・市松人形, 姉様人形  
女の子の遊びの幅が一層広がっていった

- ・真鍮, 銅製の餅網, 鍋, 釜, 包丁

- ・土製, 木, 竹製, 真鍮, 銅の台所用品
- ・ブリキ製の鍋, 釜, 包丁が出現 (1874~75)
- ・鉛製の小さな台所おもちゃ
- ・鍋, 釜, まな板などのセット

時代	西 暦	日 本 の う ご き	ままごとの変遷 (主に道具について)
明治	1877	西南戦争	大正時代ごろまでは、家の軒下などに女の子たちが集まってゴザを敷き遊んだ。 ・へっつい、竈突がま、七輪、岡持 (明治時代まで) ・土焼きの片口、茶碗3個、ブリキ製の鍋、釜、金属製の水がめ、土鍋、柄杓、皿(土、ブリキ製)、炒り豆の網などの三銭均一のセット
	1885	内閣制度	
	1886	小学校令で義務教育4か年を定める	
	1889	大日本帝国憲法発布	
	1894	日清戦争	
	1904	日露戦争	
大正	1907	義務教育6か年へ改正	
	1914	第一次世界大戦	・ボール箱入りとなり、蓋と周囲にガラス板をつけ、海外にも輸出 ・アルミニウム、セルロイド製品 ままごと道具の種類も増えてきた
	1923	関東大震災	
1925	ラジオ放送始まる		
昭和	1931	満州事変	
	1941	太平洋戦争	
戦後	1945	ポツダム宣言受諾	
	1946	日本国憲法発布	・アメリカからプラスチックが輸入される (1925) ・ミルク飲み人形 ・トースター、ミキサー、電気洗濯機などの家庭電気器具類が流行して、それを真似た新しいままごと道具出現 (1952～) ・紙や合成樹脂で作った簡単なミニチュアの「お店屋ごっこ」(1959) ・キッチンセット出現 ・クッキング・トイ ・ワタ菓子製造機、ポップコーン製造機 (1970) ・バッテリーで動く電動のミシン、洗濯機、電子レンジ ・ステンレス製のモダン・キッチンセット (電気冷蔵庫、ガスレンジ、流し台の3点セット)、スプーン、フォークなどの食器類
	1947	教育基本法 アメリカ文化の流入	
	1954	電気洗濯機普及	
	1959	高度経済成長	
	1960	家庭の電化進む カラーテレビ	
	1963	原子力時代	
	1970	日本万国博覧会 公害問題深刻化	
1973	石油ショック		

明治ごろには真鍮や銅、ブリキ製の物が出現し、昭和にはいるとアルミニウムやセルロイド製になり、種類も増え、戦後アメリカからプラスチックが輸入されて以来プラスチックが主流となった。

このように、ままごと道具の材料は、科学技術の進歩とともに移り変わってきた。プラスチックのままごとセットなどは、カラフルで子どもたちに好まれ、扱いやすくてよいと思う。けれども、最近のままごとセットの中には、本物そっくりのミニチュアの野菜、ハンバーグ、目玉焼きなどが入っていて、野菜にはマジックテープがついていて、おもちゃの包丁で切ったり、またくっつけたりできるようになっている。これでは料理の献立は数種類に限定されてしまい、子どもたちが創意工夫し、想像性を働かせながら何かを作り出すことがなくなっていくのは当然である。身の回りの自然の減少が、そのようなおもちゃでしか遊べない子どもたちを増やしている大きな原因の一つであるといえる。

いつの時代においても、子どもたちはその時代のままごと道具で楽しく遊びを展開しているが、社会の変化や進歩にともなうままごと道具が変化してきたのも当然である。けれども、現代の

実物そっくりのキッチンセットなどは、子どものままごとの内容を変化させ、逆に想像性に乏しい遊び方しかできなくしているように思う。大人は おもちゃ屋さんにある高価なままごとセットを買い与えるばかりでなく、身近にあるもので、安全で子どもに使いやすく、想像性豊かに遊べるものはないか考えていかなければならないと思う。

### 3. 現代の子どもたちのままごとの実態

現代の子どもたちのままごとの実態を把握するために調査を行った。熊本市内の市立小学校第1学年の児童173名(男子72名,女子101名)を調査対象とし、質問紙法により行った。調査期間は、平成2年11月19~21日である。調査内容は、「ままごとへの興味・関心」、「ままごとの内容」、「ままごと道具」などに関するものである。ままごとは、3~5歳ごろの幼児期に最もよく遊ぶ遊びであるが、幼児では質問紙法による調査は困難であると思われるので、その時期に最も近い小学校第1学年の児童を選んだ。

その結果、ままごとが「好き」と回答した男子は25.0%、女子は81.2%であり、「嫌い」と回答した男子は52.8%、女子は3.0%であった。ままごとは女子が好む遊びであり、男子が嫌う理由としては、「他の遊びの方がおもしろい」が最も多く、次いで「女子の遊びだ」、「おもしろくない」であった。男子は乗り物遊びなどの活動的な遊びの方に興味・関心があり、また、ままごとは女子の遊びだと思っているのかもしれない。また、部屋の中で4~6人(41.6%)、7人以上(40.9%)のグループで遊ぶことが多く、遊びの中で「料理を作ること」(77.0%)、次に「買物」(63.0%)を楽しんでいた。また、6割以上の子どもが「プラスチックのままごとセット」を持っているとわかった。

### 4. ままごとの教育的意義

以上に述べてきたように、ままごとは、日常の家庭生活の中から自然に生まれた“模倣・想像遊び”であるといえる。フリードリッヒ・フレーベルは、模倣は「自由な活動や自己活動から生じてくる。」<sup>28)</sup>と述べ、非常に重視している。そして更に、模倣行為をする場合に必要なこととして、「子どもが自分で発見し、自律的でありながらも本質的には全体の中に存在しているものとして自己を保つこと」<sup>28)</sup>などをあげている。このように模倣とは単に表面的な真似をするだけの行為にとどまらず、それを通して「自律性」や「人格」を獲得していくというような人間の本质へと深まる行為でなくてはならない。

ままごとはこのような模倣遊びの中の一つであり、ままごとをする中で子どもたちが培っていくものとして『生活の知恵』、『社会性』、『想像性』の3つが考えられる。まず、ままごとは遊びであるが、子どもたちはその中で自分たちを取り巻く様々な人々の日常の姿を見ながら、家庭や社会における生活習慣を自然に学び、『生活の知恵』をつけていく。さらに、友達と関わり合い、自己表現をして友達に意志を伝達したり、お互いに協力や援助をしたりして協力遊びをする。そこから仲間意識を持ち、人間関係のルールを学び、思いやりの気持ちが育ち、『社会性』を養っていくと考える。このようなことから、人間関係の重視が新幼稚園教育要領でも強調されたといえる。また、子どもたちはままごとの中で、例えば自然物を料理の材料にみたり、現実に経験

したことをイメージ化しながらある役に成りきったりして遊びを展開し、『想像性』を養っていく。そのためには、大人の姿を見たり、実際に経験したりすることが重要になってくるといえる。しかし、今日ではおもちゃが豊富で、経済的にも物質的にも豊かになり、情報化時代の波に乗って子どものおもちゃ産業までがコンピュータゲームを主流とするものに変化し、子どもたちの興味が移ってきている。そのため、幼児期に特有の“模倣・想像遊び”が子どもにとっておもしろくない遊びになってきているのではないだろうか。子どもたちに影響を与えている大人たちは、子どもがままごとをすることが成長・発達過程で重要であることを認識し、自然にままごとができるような環境を作ってやらなければならないと思う。想像性が豊かになり、家庭生活や社会生活を自然に少しずつ学びながら、あたたかい人間関係をはぐくみ、人格形成をしていくためには、「ままごと」は子どもの成長過程において重要な教育的意義がある遊びといえる。

## 総 括

ままごとの教育的意義や子どもにとっての必要性を検討するために、文献や実態調査から検討し、以下のことがわかった。

- (1) 「ままごと」の語源は「飯事」であり、日本各地における方言は、「飯、食物調理、調理用具」、「母親、主婦」、「大人の交際」、「子どもの集まる場所」、「雛遊び、人形遊び」、「宗教的行事など晴れの日の饗応」を意味するものに大別できた。その中で、「飯、食物調理、調理用具」や、「母親、主婦」を意味するものが多い。ままごとは“模倣・想像遊び”であり、最終的には“協力遊び”へと発展する。ままごとは「日常の家庭生活を中心に家族の姿を真似して遊ぶ遊び」である。
- (2) ままごとは古墳文化時代ごろより始まり、ままごと道具の材質は、蠟石、滑石から土、木、竹、紙、真鍮、銅、ブリキ、鉛、アルミニウム、セルロイド、プラスチック、ステンレスへと、科学技術の進歩とともに移り変わってきた。
- (3) 現代の子どもたちもままごとが好きではあるが、他に興味を持つ遊びが多く、昔と比べるとままごとは減少し、遊びの内容も変化してきている。また、主に女子が好んで遊び、部屋の中で4～6人等で遊ぶことが多い。遊びの中でも「料理を作ること」を楽しんでいる。また、6割以上の子どもが「プラスチックのままごとセット」を持っていることがわかった。
- (4) ままごとをすることで、子どもたちは『生活の知恵』・『社会性』・『想像性』を培っていく。ままごとはあたたかい人間関係をはぐくみ、人格形成をしていくために、子どもにとって必要な遊びである。

## 引用文献

- 1) 森上史朗他：「実践家庭科教育大系 17 『子どもの遊びと文化』」開隆堂，46，48，1989.
- 2) 平山宗宏他編：「現代子ども大百科」中央法規，0634，1988.
- 3) 文部省：「幼稚園教育要領」1，3，1989.
- 4) 文部省：「小学校学習指導要領」95，1989.
- 5) 文部省：「中学校学習指導要領」90，95，1989.
- 6) 柳田國男，丸山久子：「分類児童語彙」国書刊行会，153～168，1987.

- 7) 柳田國男：「定本柳田國男集第21巻『こども風土記』」筑摩書房，38～48，1970.
- 8) 茨城民族学会編：「子どもの歳時と遊び」第一法規，175～176，1970.
- 9) 丸山久子：「日本民俗学大系『童戯』」平凡社，320～322，1983.
- 10) 下中邦彦編：「大百科事典14」平凡社，159，1985.
- 11) 柳田國男監修：「民俗学辞典」東京堂，544～545，1951.
- 12) 柳田國男，丸山久子：前掲6)，154.
- 13) J. ピアジェ（大伴茂訳）：「遊びの心理学」黎明書房，51，1974.
- 14) R. カイヨワ（清水幾太郎，霧雨和夫訳）：「遊びと人間」岩波書店，17，1975.
- 15) J. ピアジェ（大伴茂訳）：前掲13)，50.
- 16) クリエイティブプレイ研究会：「遊びの指導エンサイクロペディア乳幼児編」同文書院，7，1990.
- 17) 鈴木寿雄他：「技術・家庭（下）」開隆堂，1989.
- 18) 森上史朗他：前掲1)，15～16.
- 19) 相賀徹夫編：「日本大百科全書22」小学館，106～107，1988.
- 20) 齊藤良輔：「すまいとおもちゃ」住宅新報社，140～152，1975.
- 21) A. フレイザー（和久明生，菊島章子訳）：「おもちゃの文化史」玉川大学出版部，199，1980.
- 22) 山田徳兵衛：「日本のおもちゃ」芳賀書店，208～209，1968.
- 23) 齊藤良輔：「日本のおもちゃ遊び」朝日新聞社，280，1973.
- 24) 平山宗宏他編：前掲2)，1431.
- 25) 森上史朗他：前掲1)，41～42.
- 26) 紫式部：「日本古典文学大系（14）『源氏物語』」岩波書店，1967.
- 27) 紫式部：「日本古典文学大系（14）『紫式部日記』」岩波書店，1967.
- 28) 倉岡正雄：「フレーベル教育学概説」建帛社，121～122，1987.